



三年先の稽古

発行日：令和4年3月10日

文 責：校長 星野 亜希

【た】たくましく健やかな生徒 【い】いのちを尊ぶ温かな生徒 【しん】真実と夢を追求する生徒

※大信中学校ホームページもあわせてご覧ください。

東日本大震災について考える

3月11日（金）は、東日本大震災追悼の日です。3月7日（月）の全校朝会では「東日本大震災」について話をしました。生徒には震災をただ単に「怖いもの」として終わらせるだけではなく、「あのとき何が起きて、人は何を感じ、何を考えたのか」を正しく知り、震災から多くのことを学んでほしいと思っています。

【浪江町から避難してきた知人の話から】

あのとき、着の身着のまま避難してきた私たちは、郡山に設けられた避難所（体育館）に避難していました。まだ3月下旬、寒かったことを記憶しています。郡山の方々はとても親切にしてくださいました。地震で自分の家も大変なことになっているだろうに、笑顔で私たちに声をかけ、避難してきた私たちのために朝、昼、晩の食事の提供、体育館やトイレの清掃を文句も言わずに行ってくれました。

朝、昼、晩の食事はおにぎりやパン、ペットボトルの飲み物でした。寄付された菓子類もたくさんありました。あの日、さすがに温かい物が食べたくなり、一緒に避難した知り合いと4人で、あるラーメン店に入りました。店内は、にぎやかで混んでいました。震災でライフラインに支障が出ているときでしたので、「温かい物が食べたい。」と、みんな考えていることは同じだったに違いありません。私たち4人は、久しぶりに置にあがりました。とてもホッとしました。店員さんが注文を取りに来ました。それぞれが好きなメニューを注文しました。「味噌ラーメン2つ大盛り、チャーシュー麺1つ大盛り、野菜ラーメン1つ大盛り、あ、ライスもつけてください。」「はい。ご注文承りましたあ。」するとその店員さんが付け加えて言いました。「お代は前払いになります。」私たちはお金がなかったわけではないので、ごそごとポケットに手を入れました。すると店員さんが「お代は前払いでいただきました〜っ。」カウンターの奥からは「はいよっ。まいど〜！」という声がしました。私たち4人は、あつけにとられ声がでませんでした。もちろん代金など払っていません。声をかける間もなく、店員さんは厨房に入っていきました。どうやら私たちの身なりを見て、近所の避難所に避難している人たちだと感じたようでした。

その後、ラーメンが運ばれてきました。「あの〜お代は・・・。」「大変でしたね。困ったときは、お互いさまですよ。温まってくださいね。」と店員さんは笑顔で一言言うと、忙しそうにまた厨房に戻って行きました。私たち4人は何も言葉にできず、ただ黙ってラーメンを食べました。そのラーメンはとても温かく心まで熱くなりました。胸にこみ上げるものがあり、帰り際に「ごちそうさまでした。おいしかったです。」と言うのがやっとでした。

3年生のみなさん 卒業おめでとう！

3月11日（金）は、令和3年度卒業証書授与式です。3年生には自分で決めた道に自信を持ち、自分の力で力強く前進して欲しいと思います。3年生の卒業を祝して大きな拍手を送ります。

自分を探し続けた三年間
どんな自分をつくってきたのだろう

迷いながら とまどいながら

つまずいたり 転んだり

何度もうけそうになったけれど

こうしていまを 迎えられるのは

ずっとみんながそばにいてくれたから

二度とおとずれることのない

この大切な三年間に

わたしたちはなぜめぐり会ったのか

その意味がいま わかったような気がする

人生には

出会いの数だけ 別れがあるから

さようならなんて 言わないけれど

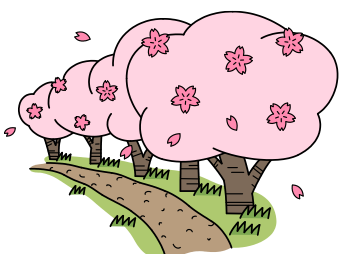
これだけは めいばい

大きな声で伝えたい

みんな ありがとう

本当に 本当に

心からありがとう



〈文部科学省 心のノートより〉